

こくりゅうだよ



大阪府立桜塚高校1年 加福 菜摘

「今年は素敵なクリスマスを過ごしたいと思い描きました。建物が難しかったです。」

おまつり地球一周クラブ ～パロル作り～

12/23(祝) 10:00～12:00

フィリピンのクリスマス飾り・パロルを作る。

要申し込み・先着15名

対象:小中学生(保護者同伴可)

参加費:200円

哲学カフェ

「うけとめる」って
なんだろう？

1/20(土) 14:00～16:00

『『うけとめる』ってなんだろう？』をテーマに、佐々木大輔さん(大阪大学学生)の進行で対話を楽しむ。

要申し込み・先着10名

参加費:無料

外国人のための 日本料理教室

1/25(木) 10:00～13:00

外国人を対象に、日本語で日本の家庭料理を作って交流する。

1月21日(日)までに要申し込み・先着15名

対象:外国人・外国にルーツを持つ人

参加費:1500円(保育あり)

日本語ボランティア養成講座 全3回終了しました！



第3回・文公輝さんの講義の様子

10月17日、24日、31日に「日本語ボランティア養成講座」を行いました。のべ102人が参加し、今年は18人がボランティアとして新たに活動に参加することになりました。

まず、山野上事務局長がとよなか国際交流協会の取組みを中心に、これから始める活動について説明しました。2回目の講座では、大阪市立大学講師の松波めぐみさんから「誰も排除されない社会をつくる～障害者権利条約と私たち～」をテーマに「障害の社会モデル」という考え方についてお話しいただきました。3回目の講座では、多民族共生人権教育センター事務局長の文公輝(ムンゴンフィ)さんから「外国ルーツの住民が直面する現実」についてお話しいただきました。これまで私たちが気づかないことも多いレイシャルハラスメントについての話は、これからセンターで活動をする中で何度も振り返ってほしいとても大切なことです。

新ボランティアの皆さん、多文化共生の場

《とよなか国際交流センター》へようこそ。

第13回 多文化 フェスティバル

11月18日(土)10:00～15:30、恒例の多文化フェスティバルがとよなか国際交流センターで開催され、470人の来場者がありました！このイベントは外国にルーツを持つ子どもや海外で過ごしてきた子ども、またそのトモダチを対象としたもので、今年で13回目になります。当日は朝早くから各国の遊びや文化紹介などのブースを出展するおとなや若者が集まり準備でテンヤワニヤ。朝からぐずついたお天気で子どもたちがやるのか心配でしたが、開催時間には多くの子どもたちが集まり、たくさんの笑い声でそんな心配は吹っ飛んでいきました。お昼にはおいしいペルー料理が出てきてみんな興味津々。見慣れない料理に戸惑っている子もいましたが、一口食べるとみんな笑顔になっていました。

今年は想定を大きく超える参加者でにぎわった多文化フェスティバル。みなさん次もトモダチを誘ってきてください。また来年会いましょう！

中国ゴマに夢中！
音は出るかな～？



小中学生の
キレキレダンスに
みんな釘付け！



世界のボードゲームに
熱中！



スタッフおすすめ図書



『サトコとナダ』

(ユベチカ著・星海社)

日本人のサトコと、サウジアラビア人のナダ。留学先のアメリカの大学でルームメイトになった二人の生活がコメディタッチに描かれた四コマ漫画です。この本では、サトコとナダとその周りの人たちが一緒に暮らす中で戸惑いながらも文化や宗教の違いを受け入れていく姿が描かれています。ともすれば、難民やテロといった負のイメージが伴いがちなイスラームですが、この本を読むとナダとサトコの日常生活を通じてイスラームを知ることができ、より身近なものに感じられます。漫画だからこそできる描写が良いのかもしれませんが、イスラームの文化や慣習や日本文化との違いだけでなく、アメリカでの生活の様子も知ることができ、クスッと笑ったり、ハッと気づかされたりするエピソードが盛りだくさんです。Twitterにて連載更新中で、ネットで全話読むことができますので、ぜひ一度読んでみてください。 (協会職員・山根絵美)

<http://sai-zen-sen.jp/comics/twi4/SATOKOandNADA/>

Youは何しに国流へ？

第3回

センターで活動している人を紹介します☆



センターでは毎週金曜日の11:00～16:00にフィリピン語・英語での相談対応と翻訳を担当しています。元々堺市内でフィリピンにルーツがある子どもたち向けにフィリピンの文化・言葉を教える活動をしていたところ、2002年に豊中でDVホットラインが開設された時、相談事業の多言語スタッフとして採用されたことがきっかけです。ここ数年でフィリピン人からの相談が増えているので、ここが相談できる場所として周知されてきたことは嬉しいです。

私自身日本に来て暮らしてきたなかで、

日本語ができないことで馬鹿にされたり地域と繋がれない時期がありました。

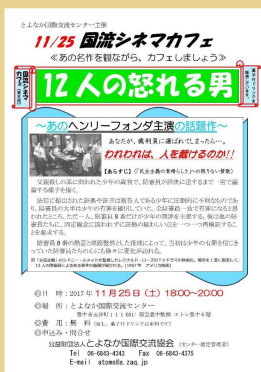
外国にルーツがある自分の子どもたちに必要な環境を作ってあげられなかった後悔もあり、積極的に学校で授業をしたり教員向けに講演をしています。先生たちの多文化共生に対する理解がなければ、子どもは育たない。だからこそ、相談事業やその他のマイノリティのサポートと同じくらいマジョリティへの働きかけも大切にしています。



外国人のための多言語相談サービス
フィリピン語スタッフ

平松マリアさん

国流シネマカフェ



11/25(土)に開催した今年度3回目の国流シネマカフェでは、1957年にアメリカで上映された「12人の怒れる男」を観ました。まさに、「民主主義の根源と素晴らしさ」への限りない賛歌を感じさせる映画でした。鑑賞された皆様から寄せられた感想を掲載し、報告とします。参加者は18人でした。

～「25年前に観た映画ですが、今一度改めて感じる人が多い映画でした。偏見を持たないで真実を求めることの難しさと大切さを考えさせられました。また、自分はできるのか？とも思いました。」
「アメリカの民主主義と人権主義を支える自由な討議が興味深かった。」「偏見はまさに人権の侵害につながると思う。正義を信じたい。」「早く決めて、成果を出すことを求められている昨今の風潮に大きな問題提起となる映画だと思った。私たちはややもすると、その場の雰囲気や自分たちの都合の良ように処理していくことがある。人間はじっくり考え話し合うことが大切だと強く感じた。」「神にあらざる人間が、人間を裁くという難しさ！」～

考えさせられることが多い作品でした。皆さんもぜひ一度ご鑑賞ください。

コラム なんちゃ・カンチャ言わせてもらえば (第104回)

「食はいのち」 皇甫康子 (ふぁんぽ・かんちゃ)

「子どもの貧困」と言われるようになる前から、気になっているのが、子どもたちの食事です。NHK「きょうの料理」が1957年の放送開始から60年になったそうです。番組の内容はどんな変遷をたどってきたのでしょうか。現在の番組ディレクター、矢内真由美さんのお話を聞きました。

放送開始当時の献立表を見ると、洋食や中華料理という主婦たちのあこがれの料理が並んでいます。当時は4人に1人が栄養欠陥と言われていた時代でした。フライパンで油を使う栄養料理がたくさん紹介されています。

高度経済成長期の1964年に開催された東京オリンピックの前には冷凍食品が出回り、サラダやドレッシングなど食の欧米化がすすみます。核家族化した家庭で、おせち料理などの伝統料理が伝授できなくなっていき、はじめて、つけものや正月料理がレシピ化されたのもこの頃でした。

1970年の大阪万博から経済安定成長期による「飽食の時代」がはじまります。共働きが増えた家庭にマクドナルドが上陸し、カップめんが登場します。成人病の食事について、はじめて取り上げられています。

1984年、日本人の平均寿命が世界一になったときは、同時に校内暴力や家庭内暴力が深刻化しています。「子どもの孤食」が問題視され、共働きの食事プランや「男の料理」、「和食」が人気となります。1995年の阪神淡路大震

災のバブル崩壊期には、「20分で晩ごはん」やアトピーの幼児おかずが放送されています。

そして、2001年の9・11同時多発テロ事件以降から現在は、食への不安を持つ生活になります。一方で、「冬ソナ」人気で韓国料理が大人気となりました。

私は辰巳芳子さんのおせち料理に感服し、小林カツ代さんの時間をかけないで美味しくできるおかずに助けられ、栗原はるみさんのひと手間かける工夫で、グレードアップすることができました。「在日」のコウケンテツさんが登場した時には本当にうれしく、祖母や母が作っていた家庭の朝鮮料理がレシピ化されていて、誇らしかったです。この番組とテキストで一から料理を学ぶことができました。自己流のレシピもたくさん作っています。

「食はいのち」です。幼いときから身につけた食生活が、生涯の宝物になります。忙しいおとなたちに代わって、子どもたちが自分で作れるバランスのよい食事の指導や、「子ども食堂」の活動など、家庭だけでなく学校や地域での食育が必要だと思います。

世界の料理に親しみ、食から国際人に育てる手立てもありますね。

(2009年4月のおしらせ1号より連載していた「なんちゃ・カンチャ言わせてもらえば」は、今月号をもって終了いたします。2018年2月号に記念特別号を発行予定です。)

登録グループの活動紹介



No.4 自主太極拳の会

———自主太極拳の会はいつごろ始まった団体でしょうか？

平良：2001年発足なのでもう今年で15～6年ですね。中国出身の初代の講師がご家庭の事情で中国に帰ることになって。私は指導するための資格を取っていたので、「ちょっと代わりに指導くれないか」というのが、この会に入ったきっかけです。

———お二人自身が太極拳をはじめたきっかけは？

平良：阪神大震災あったでしょ、平成7年かな。尼崎に住んでいたのですが、その翌年に豊中に越してきたんです。じっとしていても仕方がないと思って外に出てみたときに、公園で太極拳をされてるご夫婦がいたんです。5～6人集まって毎朝やってたんですよ。それでちょっと勇気出して飛び込んでみようかなあと思って。そこで「どうぞどうぞ、一緒にやりましょう」と言ってもらったのがきっかけです。

———それはすごく勇気がいりますね。

渡部：私は、ずっとママさんバレーをしてたんです。30代前半から、40代後半ちょっと前までやっててそろそろ体力の限界を感じて。首も痛いし腰も痛いし全部痛めてきたから、バレーボールはこれ以上できない。でも身体はなまるじゃないですか。そんなときにとよなか広報で参加者の募集を見つけたんです。太極拳ならゆっくりだしできるかな～と思いました(笑)

———太極拳のイチオシポイントって何ですか？

平良：太極拳の三要素は「意識」と「動作」と「呼吸」。その三つが絡み合ってるものなんですね。普段無意識にしている呼吸とは違うので、「風邪ひかなくなった」なんて言い方をする方もいますね。

渡部：あとは結構人数が多いので、知り合いも増えるわけですよ。それも楽しいですね。人がまた人を連れてきてくれる。ピアノの先生とか麻雀の先生とか、それぞれのお話面白いですね。でも、太極拳ってひとりでやるとできないんですよ。

とよなか国際交流センターには、市民による自主的な国際交流活動を支援するための登録グループ制度があります。実際の活動内容や国際交流への思いを伺いました。

平良：本当は一人でもできなさいいけないんですけどね、「自主」太極拳ていうくらいだから(笑)でも練習しようと思えば一人でやれるし。みんなとやっていると、雰囲気も出てその気になってきますね。

渡部：先生も良い先生ですし。

平良：ありがとうございます(笑)

渡部：丁寧にゆっくり教えてくれるから、みんなあんまり辞めないんですよ。ほかの教室だと「見て真似してくださいね」みたいなことが多いけど、ここはひとつずつ教えてくれるので。

平良：何にも知らなかった人が、形になってくるのはやっぱり嬉しいですよ。

渡部：だからもっと発表の場はあっても良いですよ。どこかのイベントでお手伝いに行くとか。ここは地域の外国の方も来られるじゃないですか。興味を持たれる方がふらっと入って来てくれたら良いなと思っています。



【活動についての問い合わせ先】

自主太極拳の会

06-6866-1607(平良)

090-7886-9615(渡部)

活動日時：毎週土曜日13:30～15:00

ブログ：<http://67404560.at.webry.info/>

とよなか国際交流センターおしらせ

「こくりゅうだより」第104号(2017年12月号)

発行元・問い合わせ：(公財)とよなか国際交流協会

〒560-0026 大阪府豊中市玉井町1丁目1-1エトレ豊中6F

阪急宝塚線豊中駅すぐ

開館時間：9:00～21:30(貸室受付は20:00まで・水曜休館)

TEL:06-6843-4343 FAX:06-6843-4375

E-Mail: atoms@a.zaq.jp

WEB: <http://www.a-atoms.info/>



SNSも随時更新中！

「とよなか国際交流センター」で検索！

